

## 林野庁の「『森の国・木の街』づくり宣言」に参画

ニチハ株式会社(本社:名古屋市、社長:吉岡成充)は、林野庁が推進する「『森の国・木の街』づくり宣言」に賛同し、同制度に参画しましたのでお知らせいたします。

林野庁「『森の国・木の街』づくり宣言」ウェブサイト <https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/rinyahp/20251001-1.html>

「『森の国・木の街』づくり宣言」の主な目的は、日本の森林資源を次世代に継承し、地球温暖化の防止と地域の活性化を図るとともに、森林を「植えて、育てる」ことに加え、木材を建築物などへ「積極的に使う」ことに取り組む自治体や企業の公表を通じて、森林資源の循環利用を進めるものです。特に、建築物の木造化・木質化を推進し、木材がCO<sub>2</sub>を長期間固定する効果や、製造時のCO<sub>2</sub>排出量が少ないといった、木材利用の環境貢献度を「見える化」することに重点が置かれています。加えて、地球温暖化対策推進法に基づく、温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度(SHK 制度)において、木材利用の効果が新たに位置付けられることとも連動し、推進されます。

ニチハはこれまで創業以来培ってきた木材資源の活用技術を生かし、原料に国産木材チップを使用した外壁材「オフセットサイディング」の普及に努めてまいりました。「オフセットサイディング」は、間伐材や国産木材から柱などを切り出す際に生じた端材を木材チップ化し、セメントと混ぜ合わせたハイブリッド外壁材であり、木材の有効利用に加え、樹木が生長過程で吸収したCO<sub>2</sub>を長期に固定する製品です。当社では2024年度において、約19万トンのCO<sub>2</sub>固定化を実現し、これは約124万本のヒノキが30年間で吸収した量に相当します。オフセットサイディングは、このような高い環境性能のほか、耐火性、耐震性などを備え、更に700種類を超える豊富なバリエーションにより、住宅・非住宅を問わず様々な建築物の外壁材として広く普及しています。

ニチハは「オフセットサイディング」の普及を通じ、森林サイクルの促進と持続可能な森林経営を支援することで、カーボンニュートラル社会の実現に寄与してまいります。ニチハは今後も、環境付加価値の高い製品・サービスの提供を通じ、持続可能な社会の構築に努めてまいります。

